

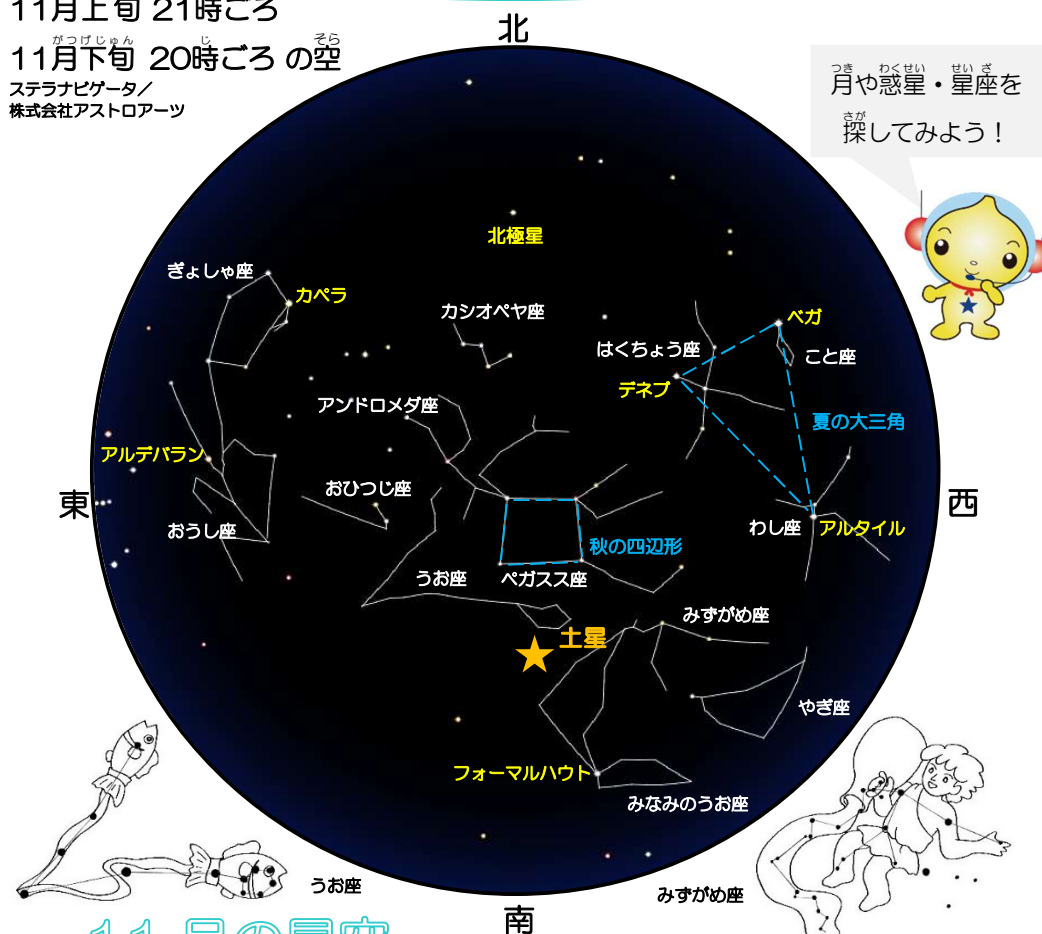
月刊 星空の散歩道 11月号

2025年

11月上旬 21時ごろ

11月下旬 20時ごろの空

ステラナビゲータ/
株式会社アストロアーツ



11月の星空

☆宵空の主な星座と明るい星☆

夏の星座は西の空、秋の星座は南と天頂、冬の星座は東の空に見えています。

< 西 > こと座 (ベガ)、わし座 (アルタイル)、はくちょう座 (デネブ)

< 天頂 > ペガサス座、アンドロメダ座

< 南 > みなみのうお座 (フォーマルハウト)

< 東 > ぎょしゃ座 (カペラ)、おうし座 (アルデバラン)

< 北 > 北極星、カシオペヤ座

☆天文トピック☆

11月2日 後の月

旧暦9月13日に見える月のこと。この日にも「お月見」を楽しむ日本独自の風習があります。少し欠けた月に見立てた栗や豆を供えて、農作物の収穫をお祝いします。この日、月の近くに土星が見えます。

☆月の形の変化☆

11月 5日	満月	○
11月 12日	下弦	◐
11月 20日	新月	●
11月 28日	上弦	◑

☆11月の惑星☆

どせい	にちぼつご	なんとう	そら
土星	日没後	南東	の空
もくせい	まよなか	ひがし	そら
木星	真夜中	東	の空

<天文コラム>月面で活躍・ルナクルーザー

アメリカが主導し、日本も参画する「アルテミス計画」は、人類を再び月面に送り、月面基地を拠点とした長期的な有人探査を行い、その成果を活かして次なる火星探査を目指すという壮大なものです。最初の目標地である月は、地球の6分の1の重力を持ち、約2週間続く日は表面温度が120度まで上がり、その後の約2週間の夜は-170度まで下がるという過酷な環境です。そうした条件下でも活動できるよう、宇宙飛行士の安全な移動を支える乗り物として「ルナクルーザー」が開発されています。

このクルーザーは日本の企業とJAXAが共同で設計を進めています。大きさは全長約6m、幅約5.2mとマイクロバス2台分くらいです。最大の特徴は「与圧キャビン」という外の真空や極端な温度差から宇宙飛行士を守り、内部を地球上と同じような気圧に保つことで、宇宙服を着ることなく快適に活動できる空間をつくったことです。キャビン内では呼吸や食事、睡眠など、地球とほぼ同じ環境で生活することができ、長期の探査活動に欠かせない「居住空間」としての役割も担います。



ルナクルーザー ©JAXA/TOYOTA

さらに、クルーザーは水から取り出した水素と酸素を利用して発電し、約1か月間に渡って生活と探査を支えることができます。まさに「月面を走る宇宙船」と呼ぶにふさわしい乗り物です。宇宙飛行士がルナクルーザーに乗り込み、月面で活躍する日がもう目の前に迫っています。

伊丹市立こども文化科学館 発行日 2025年10月20日
〒664-0839 兵庫県伊丹市桑津3丁目1-36 TEL: (072) 784-1222

